

空の新選組、熱い青春群像

太平洋戦争末期、紫電改を駆使して本土防空にあたった三四三航空隊(別名・剣部隊)の奮戦ぶりは、なかば伝説化している。本書は史実を踏まえた緻密な構成と臨場感あふれる戦術描写で、幻の名機・紫電改と「空の新選組」を自任した若き搭乗員の息づかいを現代によみがえらせた。

紫電改は旧日本海軍が本土決戦の切り札として投入した最新鋭の戦闘機である。開発は川西航空機(現・新明和)が担った。日本海軍は昭和十七年六月のミッドウェー海戦を境に、国力で勝る米軍の進攻の前に無残な敗北を重ねる。昭和十九年十月のレイテ沖海戦では、神風特攻隊が編成され、敵艦への体当たり攻撃が繰り返された。

主人公の菅野直は、海軍兵学校七十期の搭乗員で、城山三郎著「指揮官たちの特攻」に登場する最初の特攻隊指揮官行男や、最後の特攻隊指揮官中津留達雄と同期である。菅野は指揮官第一号に指名される予定だったが、零戦の空輸で本土に帰っていたために関



松田十刻著

に白羽の矢が立った。事実を知った菅野は特攻隊指揮官を志願する。

本土では連合艦隊司令部参謀だった源田実大佐が、優秀な搭乗員を集めて本土防衛にあたる新部隊を編成しようとしていた。菅野は同一機で、内地上陸を拒まれ、愛媛県の松山基地で増成された三四三航空隊の戦闘飛行隊長となる。旧航空隊は超空の要塞として恐れられた米軍の戦闘爆撃機B29やP51ムスタングなどの最新鋭戦闘機に果敢に戦いを挑んだ。

本書では特攻隊の悲劇的なドラマを進行させながら、戦闘飛行隊として「闘う」ことを許された菅野ら剣部隊の死闘ぶり、やがて訪れる敗戦の様相がリアルに描かれる。彼らはいずれも二十歳前後の若者だった。日本を愛し、祖国のために殉じていった彼らの短くも烈しく、輝け抜けた青春群像を、読み進むうちに、熱いものがこみあげてくる。紫電改は真に「闘う」意味を見失った現代人に突きつけた刃である。

【読書】一〇〇〇円

盛岡支店 藤原保雄

恋の映画誌

山田宏一書

映画の恋のシーンを旅した紀行文である。取り上げられるのはグリスの「散り行く花」からチャン・イーモウの「初恋のきた道」まで五十九本。たとえは「禁じられた遊び」。この映画を、男の子と女の

本が揺れた!

1997-2001

津野海太郎著

平成九年から十三年にかけ、「電子出版」出版不況」の大波に揺れた出版業界を、昭和四十年代から出版業界にいる著者が一瞥。五年間に書かれた時評文、行われた座談会、往復書簡などの組み合わせて、業界の激震

二代目さん

河本寿栄著

サブタイトルに「二代目」が目撃者(治の芸人)と目録の多い初代と当代の三代目に挟まれて、これまで紹介されること少なかつた上方落語の名人・二代目春樹治の一生を、五十回忌を記念して、妻でありマネジ

湖畔の夕映え

若松秀俊著

大正十四年秋、ドイツ人夫婦が島根県の松江駅に降り立った。旧制松江高校(現島根大学)でドイツ語の教師となることになったフリッツ・カルシュ夫妻である。カルシュは一八九三年、ドイツ・プラウゼツ

(文芸社・二〇〇円)